

子宮頸部異形成に対する子宮頸部レーザー蒸散術の効果に関する研究

1. 研究の対象

2010 年 1 月～2021 年 3 月に当院で子宮頸部レーザー蒸散術を受けられた方。

2. 研究目的・方法

子宮頸部異形成は子宮頸癌の前癌病変です。若年女性に好発し、治療後に不妊、流産、早産等の原因になります。子宮頸部円錐切除術、LEEP 法、子宮頸部レーザー蒸散術等の治療が行われますが、子宮頸部レーザー蒸散術は最も妊娠、出産に影響を与えないとされています。一方で子宮頸部レーザー蒸散術では手術検体を得ることができず、検体の断端の評価や診断の確定が困難となり、再発の判断が他の治療と比較して難しい場合があります。本研究の目的は子宮頸部レーザー蒸散術の治療効果、再発に影響を与える因子、術後の検査結果を参照し、再発のリスク因子、予測因子を明らかにすることです。

3. 研究に用いる情報の種類

子宮頸部レーザー蒸散術を受けた患者の診療録から、年齢・BMI・経妊歴・経産歴・合併症・喫煙歴・内服歴・背景・子宮頸部異形成、子宮頸癌の治療歴・処置前の細胞診・処置後の細胞診結果・HPV 感染・再発の有無と再発治療の情報、術者等について抽出し、統計解析を行います。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

<照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

研究責任者：

大阪国際がんセンター 婦人科 上浦 祥司

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

-----以上